

北陸石仏の会々報

第 27 号
平成15年4月30日発行

編集発行 (年会費 三〇〇〇円)
北陸石仏の会 (日本石仏協会北陸支部)
代表 北村市朗
〒939-1315 富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方
電話 〇七六三一三二一 二七七二
振替 〇〇七四〇一 二一九七四

第27回例会

仰げば時代の声が聞こえる

相方 誠一

天下の難所街道とされる「親不知・子不知の嶮」の近く越中と越後の国境、富山県朝日町境での第27回例会は雨は止んだものの曇天で風が強く海は早い白波。「加賀藩、境関所」の一带に降り立ち、墓石群近くの多くの石仏に手を合わせた。

古来から国取りの激戦地、時代に翻弄される苦渋からの脱皮や願い、安泰を念じ合った多くの喜怒哀楽の声が、北陸の日本海の波の音に交じり「あんたらⅡ貴方達Ⅱの世が羨ましい」と、石仏や石塔の中から変遷の激しい歴史に生きた人々のざわめきが私の耳を揺さぶって来た。

日本アルプスの裾として海にそそり立つ岸壁、神秘の世界が広がる事から一帯は神濟(かみのわたり)と呼ばれ、神仏信仰が極めて強く当会々員の清原為芳氏(神濟研究所)による案内説明で歴史を蘇えらせて戴いた。

国道8号線が裏山を走る「仁王山、護国寺」は平安時代

の弘法大師空海が五大明王を越中の鬼門除けとして祀ったのが創建とあり、海を見下ろす中腹石段の「三体地蔵」や「如意輪観音」の石仏が信仰の深さを滲み出し、苔むす夕ブの木の空洞に巣くうスズメバチの羽音にさえ過去の空間を越えて「声」として聞こえ出したのである。

なかでも藩主の理解を得た娘の他国へ嫁がせた事が次世になって罪となり、幼子までも一家切腹となった境関所二代の長谷川宗兵衛吉久奉行の徳を偲ぶ「長谷川地蔵三体の物語」は、現代では想像を絶する封建時代を彷彿させ、見知らぬ多くの訪問者の「前に立ち、やすらぎの手を合わす顔を見るとわが供養に安堵の時が流れる」と、地蔵の顔が穏やかにほころびるのを見逃す事が出来なかった。

さらに寺の高島清裕住職と奥さんの久美子さんが世話する石南花庭園づくりの真髄、



護国寺、長谷川地蔵を偲ぶ

五大明王滝の青銅竜頭口、太古の杉林の坂を屈折し連なる西国八十八観音御砂踏霊場は地元の檀家信者の手で寄贈され、ここを巡礼する事が出来たのは西国四十四観音の顔しかこれまで拝する事のなかつた私にとって様々な観音体に触れ「無限が広がる宇宙の神秘がここから発せられる」と感銘、嬉しくなった。

また、寺内に一年に一体づつ奈良仏師、太田古朴・正美親子が創作する高さ二・五尺の総檜彩色の七観音、技芸天立像など来年完成するとあり、落慶法要には是非とも伺つて御利益にあやかりたい。

一方、境関所の近く一里塚の庚申塔は、旅人の安全や兵禍の犠牲者、海難、山難などに集う人々が神が通う降臨の道筋的確に設置、日輪と三日月を彫つた石龕は多くあるもこれを手に持つ具体的な石版石像は珍しく、天神日月の像を崇め触れる事で「不浄を除き、心の糧」とした信仰の過程が察しられ、境の歴史を声聞く重鎮な地点として知る事が出来た。

午後からは荒れ狂う海を避ける山道の上路(あげろ) 新潟県青海町Ⅱを訪ね、謡曲「山姥と金時の里」として史蹟観光でふるさと興しをはかる山麓一帯を見学した。

村の祭神は「十二社Ⅱ山の神」、境内は鬱蒼と茂る意識的に植栽された杉の大木、社殿神門を護る龍馬、獅子、獅子象は明治の彫刻棟梁と名を馳せた北村喜代松の豪腕、拝殿に奉納される鍔絵(こてえ)は「五条の橋の弁慶、義経」を画く越中小杉の竹内長次郎の作、立体化する絵図が暗やみの中でも堪能出来た。

また、白鳥山の洞窟に住み、勇猛果敢な坂田金時を育て

た山姥を祀る「山姥神社の石祠」のあたりは、太い藤蔓が伸び金時がブランコ、お手玉石で遊び、上路村の「村興し」として歴史を辿る山麓の知恵に深い共鳴を感じた。

そして、山姥と呼ばれる老女こそ山岳修業の山伏達の女人禁制に反覆した逞しい「女修験者」であり、山に籠り俗世界を逸脱した「観音権現」として多くの足跡伝承から、当時の風習や生活空間、信仰形態も学びとる尊厳すべき実例である事を提言したい。

バスは越後から越中の山麓を走り、上路川と大平川の合流地点、段丘上にある加賀藩の境関所の延長線上にある朝日町の大平集落ⅡだらⅡの氏神「十二社」を訪問、秋の祭りの最中でもあり拝殿へ参拝、神殿横に鎮座する高さ30センチ小石像、守護獣に注目が集まった。

全体に丸ぼくなめらかな姿態、耳形状が丸くさらに目は直円から獅子形狛犬ではなく狸など山の獣を想わせ、赤色の彩色跡があり粗雑なノミ跡が見られない事から第4次発祥Ⅱ江戸、明治、大正Ⅱふるさと日本狛犬研究会分析基準Ⅱと想定した。



上路の山姥の碑の石仏の会

大平村は藩から鉄砲二挺を預かり、無断で越境するものすべて射殺する見張り役の特権が与えられ、集落民の結束は古来から固く、山のすべてに神が存在する事での信仰の絆の証は、境内での「山姥」「天狗」の石祠の祭祀情況から時代が合致される事を考察する。

帰りのバス反省会で会員から「行って、見て、触って実感出来る」の声があり同感、私はこれに「静かにたたずみ声も聞こう」を付け加え、感性を心に問いかけをすれば無言の石仏も歴史へのタイムスリップを許してくれる事をさらに学ばせてもらった。

例会見学をまとめたカラー写真入りのB4版、研究誌があります。

ご入用の方は一部を五十円でお送り致します。

(ふるさと日本狛犬研究会、観音信仰研究会)

◎観音遙迎「仁王山、護国寺」 〓長谷川地蔵、観音像

◎狛犬讃歌「境神社、一里塚」 〓境関所 一里塚

◎狛犬讃歌「上路、十二社」 〓神門彫刻 鏝絵

◎狛犬讃歌「大平、十二社」 〓神前研修 山獣

北陸石仏の会第27回例会出席者

朝日町泊・新潟県上路

清原為芳 (講師)

斎藤讓一

平井一雄

尾田武雄

宮本武征

坂本光作

松井兵英

前田英雄

相古誠一

川辺佳美

北村市朗

東野義弘

斎藤善夫

小竹一夫

南 金三

深山節代

辻文次郎

西村多恵子

岩城義弘

平野重二

藤田正時

堀 康広

柳沢栄司

《石仏紹介》14

【輪頭光に火炎宝珠のある地蔵】

柳沢栄司

頭光とは実体の無いものであろう。その上に宝珠を乗せるといふ事は、どういう事であらうか。頭光に火炎を配する例は、千手観音二十八部衆、天部などに見られるが、これは光と光を発するものとで、違和感はない。この場合は上部と左右に配してあるが、この地蔵の場合は、空間の不足でか斜め上に寄せてある。石工の創意であらうが、石仏では珍しい例である。

富山市教育委員会 (一九八三・三) 富山市石仏・石塔等分布
八幡校下 (ム) 14 笠塔婆地蔵。坐



北陸石仏の会 第28回例会案内

月 日 平成15年5月25日(日)

時間 集合 富山駅北口 午前6時30分

砺波駅南口 午前7時30分

金沢駅西口 午前8時40分

松任駅前 午前9時30分

解散 午後3時30分

参加費 五〇〇〇円

申し込み 次の事項を記入の上葉書で

住所・氏名・電話番号・集合場所

申し込み先 〒九三九一三三五

砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

北陸石仏の会事務局

電話〇七六三―三二―二七七二

〆切り 平成15年5月20日

見学予定

*金沢二塚観音の里

金沢市西南部(北陸高速道、金沢西インター西側)の二塚地区は、平安から奈良時代に渤海使者が宮腰港(金石港)から白山宮道、または京都との陸路を結ぶなど北陸の文化、政治の重要地点、平安時代からの荘園制度による禅宗進出が交錯する信仰のメッカ地としても知られている。

とくに古墳時代の豪族支配跡として平地古墳の尾丸塚と琵琶塚が現存、信仰支配の歴史は深く地域に根づいている。

地域一帯には三十三観音めぐりの路傍石観音(昭和3年開

眼)があり、祖先の寄贈した家族が供養し続けている。

北塚観音堂(個人) 北塚町 石観音、閻魔石像

祥瑞寺地藏堂(曹洞宗) 神野町 石地藏

専光寺観音堂(集落檀家) 専光寺町 石地藏、観音

観音堂(曹洞宗) 豊穂町 石地藏

東光院(曹洞宗) 下安原町

◎特別拝観 弘法大師千手観音、子授観音と母子地藏

*松任市「千代尼」と「摩耶夫人像」

聖興寺(中町) 千代尼塚、遺芳館

行善寺(北安田) 日蓮宗、道祖神

◎特別拝観 泉鏡花ゆかりの摩耶夫人像、笠野神社(上二口町)

◎特別拝観 聖観音石像、白山狛犬

おしらせ

・平成15年度会費を同封の振替用紙にて納入してください。
年会費三〇〇〇円です。

・会員 国京克巳さん(若越建築文化研究所)が財団法人鹿島学術振興財団研究助成金による「笏谷石の建造物に関する調査研究」の成果の一部として『福井県石造建造物調査報告書 神社I(坂井郡)』が発刊されました。

・富山県庄川町の種田長寿会が『種田のお地藏さん』を出版。

・富山県高岡市戸出町の「戸出を知る会」が町内の石造物を調査中。